

● コラン 逝けり

佛國畫界の巨星

我が洋畫家の大恩人

本邦洋畫の大家黒田清輝、久米桂一郎、岡田三郎助、和田英作の諸氏を其門下から出した佛蘭西畫界の巨頭ラフ・エール、コラン氏は先頃巴里に於て永眠した享年六十七歳である、遙に恩師の訃報に接した黒田清輝畫伯は哀悼の念殊に深くコラン氏の佛を偲びつゝ次の如く語つた『先生の訃は岩村透君が近著の米國雜誌で發見し先月廿一日に逝去された事を知つた次第で早速弔電を送つて置いたが尙久米、岡田、和田等の諸氏と協議し先生の

▲墓前に花環 を手向け築地の加特力寺院で追悼會を催す事にし度いと思つてゐる先生は千八百五十年巴里で生れ兩親はローレン州の人だ而うして父は巴里の小さな圖書館長を勤めてゐたが慰みに畫を描いてゐたのが専門家の壘を摩する位の腕があつた先生は斯の父の子として生れ當時一流の大家アレツサンドロ、カバネルを師とした、で先生は廿二歳の時既にサロンで二等賞を獲得し僕が入門した卅七八歳の頃は堂々たる大家の中に數へられてゐた先生は

▲日本鼻頂で 吾々日本人を特に親切にして呉れ栗野、石井、本野等歴代の大公使とも懇意であつた氣象は極めて遠慮深い方で佛蘭西人には珍らしく婦人などに對する應接が下手な人であつた住宅は佛京巴里の近郊のオン・ト子、オーローズに在つて一人の妹と共に終生獨身で暮し妹も亦獨身で相當の腕を有つた閨秀作家である得意は婦人の裸體畫で飽まで上品に描き日本の勳三等を有してゐる』

『國民新聞』大正五年二月二日